

令和6年度 いのちの授業 事例集（特別支援学校）【生活・生活単元】

掲載数

17

管轄	学年	教科等	テーマ	内容	参考事項（講師・教材等）
1 神奈川県	高1	生活・生活単元	性教育 「こころとからだ」	自身の「こころとからだ」を大切にするためにプライベートゾーンについて学んだ。大切なおところは見ない・触らせない等の意見が出た。また、パーソナルスペースについて、家族や友人・恋人といった他者との関係性、場面やお互いの気持ちによって距離感が変わることを共有した。自分自身と他者、お互いに気持ちを考えたり尊重し合ったりすることを話し合うことができた。	
2 神奈川県	中複合	生活・生活単元	防災教育 「大地震から身を守る」	○大地震の際に身を守る術を学ぶ。 ・地震や火事の動画を視聴して災害時の様子を知り、理解を深めることができた。 ・シェイクアウト訓練を行い、大地震の際の身の守り方を実践した。 ・火災の際に煙から身を守るよう、ビニールシートの高さを低く設定し、シートの下を姿勢を低くして進む練習を行った。 ・防災スリッパを新聞紙で作りと、試着した。	○動画を使用したり、防災頭巾を被ったりして実際の場面をイメージしやすいように取り組んだ。
3 神奈川県	中2	生活・生活単元	ミニトマトの栽培、収穫	秋に育てるミニトマトの栽培と収穫をした。 大きくなったミニトマトの苗を見ることで植物の成長を感じ、また、水やりをすることで植物の成長と植物を育てる道徳的心情を育んだ。収穫することで、植物の成長を感じ、野菜から自身の命を育む学習につなげることができた。	
4 神奈川県	小6	生活・生活単元	男の子と女の子	【目標】 ・「自分や友だちの性に気づくことができる」 ・「公共の場や学校で使う場所には、性別によって使用する場所が違うことを知る」 ・「学校内にあるトイレの中で、自分が使うトイレがどれか選ぶことができる」 <内容> ①男の子と女の子に分かれることを知り、自分の写真カードを該当する場所に貼る。 ②成長すると、使用できる場所も変わってくることを知る。（パワーポイントでトイレや銭湯等のイラストを見せて公共の場所にある男女マークを知る。） ③学校にあるトイレを周り、どっちに入ればいいのか考え、トイレ入口の男女マークに各自顔写真を貼る。	授業者：教育相談Co
5 神奈川県	小複合	生活・生活単元	栄養教諭による食育指導	給食ができるまでの動画を見たり実際の食材を触ったり香りを嗅いだりした。給食に使われている食材について知り、健やかな身体をつくるために必要な”食べる”ことに対する意欲・関心を高めたり、いのちをいただくことの大切さを学べるようにした。	講師：本校栄養教諭 実施学年：小4・5年 (複式学級)

6	神奈川県	小5	生活・生活単元	食育 給食の食材を知ろう	<p>毎日の学校給食がどんな食材からできているかを知ることねらいとして、ブラックボックスに野菜を入れてなんの野菜か答えたり、豚肉やサバの切り身を袋の上から触ったりして食材に触れあった。ブラックボックスの中の野菜を手触りだけで答えることができる児童やマッチングで答えることができる児童もいた。また、給食室で調理員が実際に給食を作っている様子を映像で見ることで、食材から給食ができる過程を見ることができた。</p> <p>給食は、豚や魚等の命を頂いているので、「いただきます。」「ごちそうさまでした。」の挨拶もサイン等その児童にあった形で取り組んだ。</p>	野菜や肉、魚は実物を使用した。
7	神奈川県	中3	生活・生活単元	生き物とのふれあい	<p>ドッグセラピーの方とセラピー犬をお呼びし、交流を行った。動物とのふれあいを通して、生き物について考える。動物との関わりを通して得られる温かさを味わう。以上の2点を目標に事前学習と体験日の二日間をかけて行った。事前では、怖がっていた生徒もクラスメイトが犬を抱く様子を見て、自分でも犬を抱くまでになった。「怖かった」という感想も、「温かかった」「楽しかった」という感想も、どんな感想でも大丈夫ということを事前に伝え、当日は一人ひとりの状況に応じて交流することができた。</p>	ドッグセラピーの方、セラピー犬、小学部4年生も当日参加。事前学習ではぬいぐるみを利用し、「犬とのふれあい方」を練習。
8	神奈川県	高1	生活・生活単元	心と体	<p>人との距離間を学ぶ授業で、新生児期は体幹が不安定であり、授乳時母親の体に密着させ抱きかかえる必要がある。乳児期の母親との距離感を体感するために一人ずつ新生児と同じ体重の人形をしっかりと抱きかかえることを行い、乳児期の母親との距離感を学んだ。乳児期はみんな大切に抱っこされ守られていたことを伝えた。人形を抱きかかえる際に、どの生徒も大切に抱きかかえる様子が見られ、授業後も人形を落とさないよう大切に抱きかかえる生徒の様子が見られた。後日連絡帳を通じて幼少期の頃の話を家族で話したという報告を受けた。</p>	保健室より新生児と同じ体重の人形を借りた
9	神奈川県	小複合	生活・生活単元	防災教育「シェイクアウトの実践」	<p>災害時に、自分の身をどのように守るかを理解するために「地震」に焦点を置いた授業を行った。実際に揺れる状況の中でのシェイクアウト体験を通し、その中で自分の身の守り方を学べるようにした。一人でシェイクアウトを行うことができる児童、教員の力を借り共にシェイクアウトを行う児童など、個に応じた学びの支援を行うことができた。</p>	知的障害教育部門 小学部5・6年
10	神奈川県	小複合	生活・生活単元	ポニーに親しもう	<p>地域の公園と連携してポニーとのふれあい体験を行うことになった。ポニーに対する恐怖心を軽減し、ポニーを命ある生き物として優しく関わるようにこの授業を行った。馬に関する絵本を読み、馬について知った後、馬のお面をかぶった教員におもちゃの人参をあげる練習をした。また、馬に乗る模擬体験を行った。当日、以前は怖がっていた児童が実物のポニーを見ても落ち着いて餌をあげたりポニーに乗ったりすることができた。</p>	高学年(4,5,6年)のグループで実施。 教材：馬のお面、お面と同系色の服、絵本

11	神奈川県	小複合	生活・生活単元	トマトを育てて食べよう！	4月に学校の畑にトマトの苗を植えた。天気の良い日には児童が水をあげに行き、成長過程を観察し、7月に収穫した。校内の栄養教諭と連携し、育てたトマトを調理し給食として提供してもらった。リモートで調理場と中継し、トマトが調理されていく過程や、初めて見る大きな調理器具に目を輝かせている児童もいた。給食がどのように作られているかについても学ぶことができ、その日の給食は全員が完食でした。周りの教員からも「おいしかったよ」「すごいね」と言われ、笑顔を見せる児童もいた。栽培から食べるまでの一連の流れを経験することができた。	トマトは株式会社カゴメより提供していただいた。
12	神奈川県	小複合	生活・生活単元	「防災マスターになろう」	「身の守り方」、「地震を揺れや大きさを体験すること」、この2つのねらいを基に学習を行った。動画を視聴した後に、身の守り方を教員が実演し児童が模倣する活動を行った。その後、YURETAという地震体験道具を用いて、一人ひとり体験した。地震の揺れの大きさや強さを体感し、少しでも地震の怖さを知ってほしいというねらいから遊びという雰囲気を出さずに真剣に取り組む姿勢を教員が手本として見せた。全児童が、真剣に取り組む様子が見られ、実施しての効果を感じられた。また、児童の実態から繰り返し取り組むことでより定着することから、授業以外でもシェイクアウトや避難訓練で練習を重ねている。児童の変化として「地震がきたらどうするのか」という問いかけですぐに頭を両手で守る姿勢をとれる児童も増えた。	対象：小学部 教材：災害時の動画 YURETAマット
13	神奈川県	高3	生活・生活単元	他者理解 他者尊重	人権教育と関連させ、生徒が自分の大切さとともに他の人の大切さを認められ、それが様々な場面等で具体的な態度や行動に現れるようにロールプレイなどを行いながら学習をすすめた。3年生で生徒同士は相手のことを知っている中ではあるが、生活上のいろいろなシチュエーションを取り上げることで相手を気遣い、状況などを認めることについて発言できる生徒がいた。	
14	神奈川県	中2	生活・生活単元	マタニティ体験	①妊婦体験セットの装着（妊娠中の体の変化や不便さを体験） ②新生児人形の抱っこ体験（新生児の重さを再現した人形を使い、抱っこの仕方を学んだ） これらの体験を通じて、命の大切さや尊さを実感し、自分や他者の命を大切にする態度を育むことを目的とした。また、これらのことを体験することで、自分の成長や家族の支えについて、改めて考える機会とした。	知的障害教育部門 ※妊婦体験セットと新生児人形は中原区社会福祉協議会より借用。
15	神奈川県	高1	生活・生活単元	野菜の栽培・調理	サツマイモの栽培を通して、苗を植えることから収穫までの植物の成長を観察したり、土や植物の感触やにおいを感じたりすることで、植物にもいのちがあるということに気づけるようにした。また、育てた作物を用いて調理実習を行い、食べ物を大事にするなど食に関する興味も持てるようにした。収穫体験や調理を通して、土や野菜に触ることに抵抗があった生徒も、少しずつ触れてみようとするようになるなど、興味を持つ姿が見られた。	・収穫した野菜 ・調理実習で使用した作物、器具等 ・土、苗等

16 神奈川県	高2	生活・生活単元	<p>「防災力を高めよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東日本大震災について</li> <li>・火災から身を守る</li> <li>・避難所体験</li> </ul>	<p>修学旅行で宮城に行くため、防災学習を継続して行っている。東日本大震災について触れながら1学期に地震についての学習を行い、2学期は火災についての学習を行った。火災については煙体験ハウスを地域の消防署より借用し、煙の中を歩く体験をした後、火点の的に投擲型消火剤に見立てたボールを投げたり、水消火器を使って消火体験を行ったりした。避難所体験では、1.5畳サイズでテープを貼り、その中にダンボールベッドを用意して実際に過ごす体験をした。</p>	<p>教材：煙体験ハウス、水消火器（消防署より借用） 火点用の的（自作） ダンボールベッド（学校備蓄品を使用）</p>
17 神奈川県	小3	生活・生活単元	<p>防災学習「かじとしょうぼうしゃ」</p>	<p>防災学習として7月に火事が起きた時には、防災頭巾（ヘルメット）を被って、ハンカチで口を押えて、低い体勢をとって、避難するという避難行動をみんなで行った。9月には、消防署の方たちを外部講師として迎え火事の危険性や消防署の役割等について学んだ。消防士の方たちと触れあったり、消防車を観察したりすることで、児童が興味を持って学ぶことができた。また、煙体験や消火器体験では、7月に学んだ行動をとることができた。</p>	<p>講師は、地域の消防署職員。消防車、煙体験ボックスと練習用の水消火器を持参していただいた。</p>